

活用例

本人の暮らしを評価



リハビリ職の活用

利用に至った経緯



直近で転倒歴があり、方向転換が上手くいかない、ふらつきがあるなど、現在使用中の押し車に不安・・・適切な福祉用具について助言が欲しい。

リハビリ職と一緒に同行訪問

現状の評価を行い、歩行車への変更、現状の押し車でも持ち手の高さの調整を行うことで転倒しにくくなる。本人の能力や生活環境に合わせてアドバイス。

利用に至った経緯



配偶者が他界した頃より、寝ている時間が増加。室内でも躓きや転倒があり、肩も上がりづらく入浴動作にも支障が出てきた。室内環境と必要なサービスについて助言がほしい。

リハビリ職が三者協議の場へ同席

既に手すりがある場所でも転倒があるため段差や手すりの変更を、玄関ドアが重いため体を支持するための手すりを提案。周囲との関わりが減少しているため、通所利用を検討し精神面へのフォローも必要。

利用に至った経緯



進行性疾患があり室内での躓きが増え転倒の不安あり。認知機能の低下もある。夜間排尿もあるため生活環境の変更、転倒予防のため対応を教えてください。

リハビリ職がサービス担当者会議に同席

生活環境の確認を行い、起居動作のための福祉用具、廊下・トイレへの手すり、勝手口の高さ解消を助言。本人の強い希望「2階に洗濯物を干したい」ができるよう安全確保の手すりについて助言。現在の能力と予後も見据えた助言を家族を含めた関係者へ実施。

利用に至った経緯



胸椎圧迫骨折後、自宅の浴槽が深く跨げないためシャワー浴のみ。「湯舟に浸かれるようになりたい」という本人の意向へ対応したい。

リハビリ職と一緒に同行訪問



浴室環境の確認後、浴槽台やバスグリップの導入を提案。実際に入浴動作の確認も行い、安全に動作ができる高さや位置についてアドバイス。

利用に至った経緯

下肢筋力低下が著しく「自分なりの工夫」で何とか生活。専門職の介入がないため、状態の確認とサービスの必要性について動機づけをしてほしい。

リハビリ職と一緒に同行訪問



身体状況と生活環境を確認。全身の筋力低下で生活に支障あり。専門職の介入で身体機能改善と生活動作の指導が可能と本人へ伝え訪問リハ導入へつながる。歩行者やトイレ環境、自主訓練についても助言。

管理栄養士の活用

利用に至った経緯



心疾患や腎機能低下があり、退院時の栄養指導で、塩分に注意するよう指導されている。

自宅では、自分なりに工夫されているが、塩分に配慮した食事作りが負担で、食事管理が上手くできていない。



どう対応したらいいか・・・

本人宅で、担当ケアマネジャー、ヘルパー、訪問看護師も同席し、多職種で検討



1回目の訪問 現状の確認・評価・指導

- 体重や浮腫の有無、内服等の身体状況の確認
- 食事内容や買い物内容の確認
- 本人の思い「体重を減らしたい」を確認



朝は菓子パン、昼は弁当の残り、夕は配食弁当（麺や丼もの多め）を摂取、間食に煎餅やアイス。買い物は、野菜やたんぱく質食品がほぼない。

ベッドに寝たり起きたりの生活で外出がほとんどなく、訪問リハビリ利用以外の活動性が低い。

調理方法が分からず、身体活動不足、知識不足により経口摂取量過剰な状態

ヘルパーさんの協力

- 冷凍野菜やたんぱく質を多く含む食材の購入
- レンジを活用し本人と一緒に簡単な調理を行う

次回1か月後に再度、確認しましょう

- 食事内容の変化
- 体重の増減



2回目の訪問 現状の確認・評価・指導

- 体重の増減と食事内容の確認
- レンジで本人と一緒にゆで卵を調理

ヘルパーの協力もあり緑黄色野菜や豆腐などたんぱく質を多く含む食品の摂取量が増加。

配食弁当に冷凍野菜をプラスするようになった。

卵のレンジ調理器を家族が購入してくれていた。

訪問リハビリへ調理作業の動作確認をお願いすることとなった。

■ 混ぜる・卵の皮をむく等の簡単な動作ができること、面倒な調理に取り組み料理の幅が広がるだろう。

■ エネルギーの低い野菜の摂取量が増えることで体重増加を防ぎ目標体重まで減量も可能だろう。